

# がさぐるま

ひと 未来 輝いて

2022 October

NO. **107**



ワークショップ明星園利用者の作品

## トピックス

- 令和3年度事業報告（概要）及び決算報告
- 令和4年度役員及び評議員
- 理事長就任のあいさつ
- 各施設の取組
- お知らせ

## 令和3年度 事業報告（概要）

令和3年度は、社会福祉事業における「利用者の権利擁護の推進」及び「個別支援の充実」を普遍的取組として、職員の倫理観や価値観の向上と更なる定着を目指して「職員倫理綱領」と「各施設行動基準」の遵守に継続して取り組みました。

また、平成28年度から10年をスパンとした後半5年間の経営計画である「将来構想に基づく後期5か年実行計画」の開始年度として、実行計画の基本方針に基づき、特に令和3年度において取り組む6つの重点項目（①地域と共に歩む事業展開、②地域を支える総合窓口、③機能強化及び地域移行の推進、④業務効率化の推進（ICT化・AI化）、⑤人材確保・育成と働きやすい職場づくり、⑥自立的経営の確立）について、確実な実施のための進行管理と諸課題への対策等のため「プロジェクトA・B・C」を置いて、計画の推進に努めました。

## 令和3年度 決算報告

### 令和3年度資金収支計算書

(単位：円)

勘定科目	決算額
事業活動による収支	
事業活動収入計	6,919,057,727
事業活動支出計	6,490,021,006
事業活動資金収支差額	429,036,721
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	868,177,945
施設整備等支出計	915,418,114
施設整備等資金収支差額	△ 47,240,169
その他の活動による収支	
その他の活動収入計	147,545,454
その他の活動支出計	168,042,825
その他の活動資金収支差額	△ 20,497,371
当期資金収支差額合計	361,299,181
前期未支払資金残高	1,467,042,239
当期末支払資金残高	1,828,341,420

### 令和3年度事業活動計算書

(単位：円)

勘定科目	決算額
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	6,914,331,516
サービス活動費用計	6,630,864,308
サービス活動増減差額	283,467,208
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	11,076,777
サービス活動外費用計	6,160,955
サービス活動外増減差額	4,915,822
経常増減差額	288,383,030
特別増減の部	
特別収益計	1,465,459,450
特別費用計	1,465,574,886
特別増減差額	△ 115,436
当期活動増減差額	288,267,594
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	2,091,667,542
当期末繰越活動増減差額	2,379,935,136
基本金取崩額	0
その他積立金取崩額	90,170,000
その他積立金積立額	97,791,000
次期繰越活動増減差額	2,372,314,136

### 令和3年度貸借対照表

(単位：円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	2,235,034,860	流動負債	724,424,025
固定資産	8,885,725,002	固定負債	1,505,639,349
		負債の合計	2,230,063,374
		純資産の部	
基本財産	5,738,520,702	基本金	10,000,000
		国庫補助金等特別積立金	4,771,843,911
		その他の積立金	1,736,538,441
その他固定資産	3,147,204,300	次期繰越活動増減差額	2,372,314,136
		(うち当期活動増減差額)	288,267,594
		純資産の部合計	8,890,696,488
資産の部合計	11,120,759,862	負債及び純資産の部合計	11,120,759,862

## 令和4年度 役員及び評議員 (令和4年10月1日現在)

### ◎役員

職名	氏名	現職
理事長	加藤 亮	専任
常務理事	荒木 歩	専任
理事	伊藤 陽介	浜田・伊藤法律事務所 弁護士
理事	新澤 陽英	公立置賜南陽病院 医師
理事	鈴木 一成	総合コロニー希望が丘 所長
理事	佐藤 保政	総合施設かるむの里 所長
理事	木村 正明	養護老人ホーム明鏡荘 荘長
監事	大泉 享子	山形県労働委員会 委員
監事	矢口 俊雄	前公益財団法人山形県生涯 学習文化財団 専務理事

### ◎評議員

氏名	現職
稲葉 明彦	山形県老人福祉施設協議会 副会長
江口 拓也	日本精神科病院協会 山形県支部長
金子 正美	川西町社会福祉協議会 会長
菊地 義隆	山形県知的障害者福祉協会 副会長
佐藤 啓之	遊佐町社会福祉協議会 常務理事
澤邊みさ子	東北公益文科大学 教授
玉木 康雄	山形県社会福祉協議会 会長
福田 香	山形県身体障害者福祉協会 事務局長
前川 孝子	フリーアナウンサー

(※五十音順)

## 令和3年度実践報告会が開催されました

当事業団では、サービスの向上を目指して取り組んできた日頃からの実践について、改めて分析・評価することで専門性の継承と職場の活性化を推進することを目的に毎年開催しています。令和3年度は、オンラインで実施しました。助言者には、山形県社会福祉事業団荒木常務理事、山形県総合コロニー希望が丘鈴木所長の他に、令和元年度よりご協力いただいている東北公益文科大学の鎌田剛准教授をお招きし、発表施設に対し、ご助言・講評をいただきました。

各施設の取組や助言者からの具体的なアドバイスを、職種を越えて共有することができました。当事業団では、引き続き多職種で分析・検証を深め、さらなるサービスの質の向上を目指していく所存です。今後も当事業団は、実践研究を通して専門性の継承と職場の活性化を推進してまいります。

助言者をお引き受けいただいた鎌田剛准教授に、あらためて御礼申し上げます。

### 令和3年度実践報告会

	施設名	テーマ
最優秀賞	障害者支援施設 山形県吹浦荘	『もっとみんなと遊びたい、お話したい』 Kさんが望む、楽しい吹浦荘での生活を求めて』
	救護施設 山形県みやま荘	『コロナ禍をチャンスに変えよう！ ～みやま荘ネットショッピング元年 「アマゾンってブラジルから届くんだが？」～』
優秀賞	障害者支援施設 山形県梓園	『安心できる地域生活へつなげるために ～地域移行へつながった事例を通して～』
	多機能型事業所 山形県ワークショップ 明星園	『多機能型事業所と共同生活援助事業所の 連携について ～重度知的障害を伴う肢体不自由者の ショートステイの受入れ～』
	特別養護老人ホーム 福寿荘	『下剤に頼らない自然排便を目指して ～食物繊維とオリゴ糖、カフェインの効果について～』
	障害者支援施設 山形県鶴峰園	『障害者支援施設における経管栄養利用者の受け入れ ～廃用症候群予防の取組～』



# 理事長就任のあいさつ



## はじめに

本年4月1日に理事長に就任いたしました。微力ではありますが、県民福祉の向上を図るため全力で職務に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

当事業団は、利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、昭和39年に設立され、今年で58年目を迎えました。この間、先駆性、専門性及び広域性を発揮し県民福祉のセーフティーネット機能を果たしながら事業を拡大し、現在、特別養護老人ホーム4か所、障害者支援施設5か所、障害福祉サービス事業所1か所、救護施設2か所、指定管理施設である養護老人ホーム2か所、そして相談支援やグループホームなどの障害福祉サービスの利用調整や地域での生活・就業を支援するサポートセンター4か所を経営しております。

## 近年の事業団を取り巻く環境

事業団は、地域の人口減少に加え、複雑化・多様化する福祉ニーズに対応することが求められています。また、令和2年に発生した新型コロナの感染拡大が長引いており、職員は感染対策を講じながら利用者支援しなければならないなど日々の業務負担が増しており、加えて通所事業の休止や感染防止対策費の増嵩などが財務上の重荷になっています。さらに、自然災害が頻発し、しかも豪雨災害のように激甚化しており、利用者の安全のために災害への不断の備えが必要になっています。

一方、政府は、社会保障全体における給付と負担のバランスの不均衡が、国の債務残高が累増する最大の要因としており、令和6年度に予定されている診療報酬、介護報酬及び障害福祉サービス等報酬の同時改定などで課題解決を図ることを検討しています。事業団としては、制度改正などの情報を的確に把握して、迅速かつ組織的に対応していく必要があると考えております。

## 自立した経営基盤の確立

事業環境が厳しさを増す中、事業団が将来にわたり継続的かつ安定した福祉サービスを提供するためには、適正な事業規模で十分な利用率を確保した効率性の高い経営を実現することにより、自立した経営基盤を確立することが求められています。このため、事業団では、平成28年度から令和2年度までの「将来構想に基づく5か年実行計画」に続き、3年度から7年度までの「将来構想に基づく後期5か年実行計画」で経営改善に取り組むこととしています。また、後期5か年実行計画では、3つのプロジェクトチームを立ち上げて取組を推進するとともに、毎年度、外部委員による経営改革評価検証委員会を開催し、進捗状況を評価していただくこととしております。さらに5年度には中間評価を行い、実行計画の達成度を上げるために、必要に応じて支出削減策を追加することとしております。

## 山形県総合コロニー希望が丘の再編・改築

知的障害者支援施設の中核である「山形県総合コロニー希望が丘」は、他の施設への入所が困難な障がい者の受け入れなど知的障がい者のセーフティネットとしての役割を果たしております。川西町下小松に集約されている現在の施設は、昭和49年の開設から50年近く経過し、老朽化が進んでいることから、近年の障がい者の暮らしにおいて重要視されている「地域移行・地域との交流」及び「隔離感の解消」の視点を踏まえ、入所施設やグループホームを村山地区から置賜地区にかけて分散配置することにより、再編・改築することにしております。

## 事業団の将来を担う人材の育成

事業団の様々な福祉サービスを提供しているのは、施設の職員であり、職員が事業団の財産です。組織が、環境やニーズの変化にしなやかに対応していくためには、一人ひとりの力が十分発揮されることが重要だと思っておりますので、今後とも、多様な人材を確保し育成すると同時に、働きやすい職場環境づくりを進めていきたいと思っております。

なお、理想とする職員像は、利用者や同僚、関係機関の方々などと円滑な人間関係を築きコミュニケーションが取れることと、何歳になっても新しい知識技術を吸収できることで、私自身も常々意識していることです。

## むすびに

事業団は昭和40年に社会福祉法人として認可され、今日に至っております。近年、政府では、社会福祉法人が、地方における高齢者の減少と生産年齢人口の減少の加速化といった人口動態の変化に加え、子育てや介護・生活困窮など福祉ニーズの複雑化・多様化に対応していくためには、経営基盤強化を図るべきであるとし、そのための方策として、希望する社会福祉法人の合併・事業譲渡を円滑に進める環境整備や社会福祉連携推進法人の設立に向けた制度づくりの検討を行っております。このような動きは、事業団の今後の事業環境が厳しさを増すことを予告しているようにも感じられます。

事業団が様々な困難を乗り越え、将来にわたって利用者や地域の方々の期待に応えられるよう役職員と共に精励してまいりますので、ご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。



## ●各施設の取組

当事業団では、老人ホーム・障害福祉サービス事業所・救護施設など、県内全域で事業を展開しています。各施設・事業所においては、新たな生活様式に対応した支援や季節行事を行うなど、コロナ禍でも元気に活動しています。

今回は、各施設・事業所がどのような取組をしているのか、ご紹介していきたいと思います。



### 寿泉荘 「3回目のコロナの夏に思うこと」

荘長 長谷川 智

世の動きとは違い、この2年半ずっと緊急事態宣言が続く私たちの業界ですが、寿泉荘では、6月からZoom等によるリモート面会を始めています。画面越しでの遠方のご家族との再会に嗚咽する利用者様の姿に心を震わせながら、「クラスターは絶対に防がねば!」と、感染管理認定看護師を招いての研修(厚労省主催)も開催しました。このような取組をしつつ、「寿泉荘では今やれることを精一杯やっています!ですから神様仏様、どうか1日でも早くコロナが過ぎ去ってくれるようお願いします!」と強く祈る日々を過ごしているところです。



「自室にてZoom面会」

### 泉荘 「コロナ下での潤い」

荘長 深頼 善信

新型コロナウイルス感染が猛威をふるい続け、利用者の皆さんの生活も窮屈な状況が続いています。職員も、持ち込まないように、細心の注意を払いながらの勤務が続いています。そんな中で、少しでも利用者の皆さんの生活に潤いが出るような工夫をしていますが、8月23日に荘内で納涼大会を行いました。クラブ活動の時間を利用して盆踊りの練習を行ったりと、塗り絵コンテストの作品を作ったりと、事前準備も楽しみながら、当日は、ビンゴ大会や、スイカ割りなど、非日常を大いに楽しんでいただけた一日でした。



## 吹浦荘 「吹浦荘の夏祭りを楽しみました」

荘長 遠田 美枝

昨年は、利用者の皆さんと職員だけで夏祭りを行いました。今年、Web会議システム「Zoom」を活用し、6台の端末を使って、祭りの様子をご家族に配信しました。祭りの会場ではプロジェクターを使って画面に写した他、2つの会場とご家庭を映像で結ぶことができました。

利用者の皆さんは、画面にご家族が映っていることにびっくりし、ご家族から呼びかけられて2度びっくりする場面もありましたが、直ぐに大喜びに変わりました。久しぶりにご家族と時間を共有し、祭りを楽しめたことは、職員にとっても充実した時間でした。



## しおり 「農業と福祉の連携について」

主任援助員 武田 冬樹

コロニー希望が丘しおりでは、令和3年度より農事組合法人がんきょうファーム様と連携して利用者へ、地域とのつながりや働ける場の提供をしています。

仕事の内容はぶどう出荷用のダンボール組み立て、稲の苗箱洗浄、きゅうり畑の枯れ葉もぎ等、多岐に渡っています。

施設での生活とはまた違った場のせいか、普段より一層精神的に取り組む姿に職員としても新たな【気付き】を得られることもしばしばです。「次はいつや?」「昔、家で米作ってたんだ」等、笑顔で話してくださることも増えたように感じられます。



## まある 「まあるいつながり」

援助主査 田宮 睦美

生活介護事業所まあるは、移転して2年目を迎えました。このコロナ禍で地域の方々と直接関わりをもつことが難しい状況の中、事業所PRの一つとして近隣へ向けたリーフレットを作成し、どのような事業所なのかを知っていただく取組を行いました。また、利用者の皆さんが活動で作ったWAROCK（ペイントした石）や他にも作品を道路沿いに展示し、気に入ったものはご自由にお持ち帰りいただけるようにしています。より多くの方々の目に触れ、お手元に届くことで、地域にある一つの事業所としてもっともっとつながりを広げていきたいと思っています。



# アビリンピックやまがた2022

令和4年7月6日に山形ビッグウイングでアビリンピックやまがた2022（第20回山形県障害者技能競技大会）が開催されました。独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構山形支部が主催するこの大会は、日ごろ培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の方々に障がいのある方に対する理解と認識を深めてもらい、雇用の促進を図ることを目的としています。当事業団からは山形県鶴峰園の菅原久さんがDTP種目で出場し技能賞を受賞されました。

## 「アビリンピックに参加して」

鶴峰園参加選手 菅原 久

7月6日に山形で行われた「アビリンピック山形2022」のDTP部門で、15年ぶりに技能賞を皆さんのご声援のお陰で頂きました。朝早く起きて行った甲斐があり、また来年上を目指して頑張ります。ありがとうございました。



## 「継続は力なり」

援助員 三浦 瞬

鶴峰園では毎年アビリンピックへの参加を支援しています。今年も会場では様々な種目に分かれ、日々の研鑽で培われた技能を競い合う参加者たちの姿がありました。何事も努力に勝るものはないと感じた1日でした。

# のどか「おいしいパン」あります。



のどかでは、生産活動としてパンの生産・販売をしています。こだわりは、何といても『添加物不使用、国産の材料を使用した安心安全なパン！』一度ご賞味あれ♪



無着色  
無保存料

安全・安心  
国産材料  
使用

就労継続支援B型事業所「のどか」  
〒999-3511 西村山郡河北町谷地己56番地の8

詳しいお問合せは  
☎0237-72-6550 までご連絡ください！

山形県社会福祉事業団ホームページでは、施設情報や職員採用情報を随時更新しています。

URLはコチラ↓  
<https://www.ysj.or.jp>



山形県社会福祉事業団では  
感染対策を徹底しています



※掲載写真の一部は、撮影時のみマスクを外しています。